

新城市民病院の研修生活を終えて

豊橋市民病院 研修医 2年

先生方、スタッフの皆様、本当にお世話になりました。直接ご指導いただいた総合診療科の先生方は忙しい中でもいつも親身に相談に乗ってくださり、スタッフの方々は例えば病棟で困っているとすぐに声を掛けてくださったり、廊下ですれ違ふと必ず挨拶をしてくださったり、車で移動中には新城の興味深い歴史を教えていただいたり（笑）、新城市民病院はとても温かい場所だなあと感じる場面ばかりでした。そんな恵まれた環境で過ごした1ヶ月の研修生活は、医学的に学ぶ事も多く、また地域医療とは何かを知る事もでき、改めて自分がどのような医師になりたいのか、どのように患者さんと関わっていききたいのかを見直す良い機会にもなりました。

今回の研修では、総合診療科外来、入院管理、名郷先生のEBM勉強会、作手診療所訪問、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、地域医療連携スタッフの方のお話、介護老人保健施設訪問、新城助産所訪問など多くの貴重な経験させていただきました。総合診療科外来は流石その名の通り、頭から足先まで様々な主訴の患者さんが受診されていましたが、入院中の患者さんも、脳梗塞、心不全、緩和目的の末期癌、更には骨折などと内科分野も超えて幅広くフォローされている事にとっても驚きました。しかし、地域病院は都会に比べて医師数が少ない現状や、限られた医療資源や移動距離故に三次への転院搬送が必要か否かを即座に判断しなければいけない点を考えると、僻地における医師には、先生方のように一人一人が、分野を超えてトータルで患者さんを診る力がより重要であると思いました。また、この「トータル」の中には、医学的な面のみならず、患者さんの社会的背景や、患者さん自身やその家族の考え方も含まれていて、今まで自分の研修病院ではじっくり考慮できる機会がなかった為、今回外来のみならず、作手診療所見学、訪問介護やリハビリ、スタッフの方のお話、老人保健施設訪問で、病院外での患者さんの生活を見学させていただいた事で、その大切さを改めて実感する事ができました。

私は今、将来、緩和ケアの道に進みたいと考えていますが、もともと医師を目指したのは、祖父母の在宅介護を実際に見て、自分もこんなふうに病院内だけにとらわれず、患者さんを支えられる医療チームの一員になりたいと思ったのが切っ掛けです。まさに新城市民病院で経験させていただいた事は、私がかつて思い描いていたもので、初心に戻った気持ちになりました。まずは内科医としての急性期・慢性期に関わらず積極的に医療に取り組んで知識や経験を積み、20年後・30年後は、患者さんとまったり向き合えるそんな医師になれたらと思います。

最後に、今回の研修で、名郷先生の診察を見学させていただいたり、EBM勉強会に参加させていただいて臨床に生かせる効率の良い論文の読み方を教えていただいたり、非常に貴重な機会をいただけた事をこの場を借りしてお礼申し上げます。

先生方、スタッフの皆さま、本当にありがとうございました。